

令和元年度

事業所名： 認知症高齢者グループホームおりつめ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100011		
法人名	社会福祉法人 九戸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームおりつめ		
所在地	〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村伊保内第8地割15-1		
自己評価作成日	令和元年10月3日	評価結果市町村受理日	令和元年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、ご家族はもちろんのこと、地域の方との関わりを積極的に行っている。  
事業所の方へ地域の方が来て下さるだけでなく、利用者と一緒に地域の行事へも参加をし、交流ができるように努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0393100011-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0393100011-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは村中心部の一角にあり、近隣には役場や村福祉センター、九戸診療センターがある。また、近くには同法人が運営する特別養護老人ホームがあり、ホームとも連携した取り組みが行われ、地域における福祉の主要な一翼を担っている。地域との交流を積極的に行っており、町内会には各家庭に広報誌を配布してホームの行事をお知らせし、多くの住民が来所し交流している。また、家族との連携を重視し、家族アンケートの取組みを行い意見や要望を汲み取る努力を行っている。利用者のケアについては、接遇に関しては、「自己チェック表」を各職員が記入して、自ら振り返る取り組みを行い、処遇の改善に向けた努力を重ねている。災害対策においても、火災想定を中心に毎月1回の避難訓練を実施しており、新たに洪水時の避難訓練を予定するなど、全般的に意識の高い取り組みがなされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年10月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームおりつめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について法人研修として倫理・法令順守を含め研修を行っている。理念については、施設内の見える場所に掲示し職員間で周知意識できるように努力している。事業所スローガン「安全・安心・快適に」についてもパンフレットにも明記して取り組んでいる。パンフレットを母体法人、玄関に置いている。	法人の理念を「心ふれあい、ともに歩み続ける施設を目指します」とし、更にホームのスローガンである「安全、安心、快適に」と併せて、玄関等に掲示するとともに、毎年の職員研修会で確認している。また、個々のケース検討会の中でも意識的に話題としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人広報誌、法人ブログ等で地域に向け活動の報告等に務めている。地域に向けて毎月施設内で行われるリハビリの開催日お知らせチラシの配布、夕涼み会の開催などを行っている。住み慣れた地域の行事にも計画し参加を行っている。畑での野菜作り等を地域の方と一緒にやっている。	町内会に参加し、法人広報誌を地域内の約40戸に配布してホームの夕涼み会や月2回のリハビリ会等を広報している。小学校の運動会に出かけたり、中学生の職場体験を受け入れて交流している。九戸祭りを見物し、踊りの団体が門打ちに来訪してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月施設内で行われているリハビリ時には地域の方の参加頂き実際に一緒に時間を過ごすことで認知症への理解に向けての取り組みを継続している。多く外出することで地域の方とふれあい互いに理解頂けるよ努力している。リハビリ後には地域の方とおやつ作りも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し活動報告、職員の研修参加等の報告、是正報告、ヒヤリハット報告、身体拘束の報告等行い意見を頂きケアやサービスに取り入れている。実際、夕涼み会や敬老会へ参加頂き職員と共に利用者に寄り添って頂いている。	町内会長と民生委員の他にも近隣の代表者が参加している。夕涼み会や職員との合同研修会との併催も設定している。内容的にも工夫され、行事の報告以外でも、身体拘束や災害関連の話題がよく出され議論されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協働関係を築くよう取り組んでいる	介護支援専門員が村の介護支援専門員連絡会に参加し情報を知る事が出来ている。グループホーム内の事例についても情報として提供できている。今年度の取り組みとして村の防災訓練に参加する計画があり会議に出席できている。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に毎回参加するほか、入居検討委員会にも参加している。また、行政主催の介護支援専門員連絡会や地域ケア会議に参加し、行政のみならず関係機関との連携にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間職員が1名での勤務となる時間以外の玄関の施錠は行っていない。毎月身体拘束廃止適正委員会を開催し身体拘束について職員全体で検討、確認することが出来ている。向精神薬についても家族と相談し主治医と連携し本人の負担ない生活を送れるように取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会は毎月開催され、現状の確認と方向性を話し合っている。向精神薬の利用者がいるため、医師や家族とも十分に話し合い対応している。家族の了解を得て転倒防止のためのベッドセンサーを一人が利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	接遇について自己チェックシートを用いて職員個人個人が振り返りを行っている。接遇マニュアルを制定しサービスの基本姿勢を職員間で統一している。今年度において、権利擁護推進委員養成研修受講予定としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度において、権利擁護推進委員養成研修受講予定としている。現在、権利擁護に関する制度を利用している方はいないが知識を学ぶ機会を検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時点で施設の見学を行って頂き概要の説明等行っている。入所の際は利用料金、契約内容についての説明を行っている。また、入居中の方においても状態変化が見られた場合等にご家族を交えての話し合いを持っている。ご本人の思いご家族の希望に添えるよう実践している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しどなたからでも意見を頂けるようにしている。年2回家族対象のアンケートを実施し報告しており今年度も1回目の家族対象のアンケートを行っている。法人の苦情処理委員会にも出席しており第三者からのご意見を頂き改善に向けている。ご家族面会時にも伺えるよう声掛けを行っている。相談票を作成し施行している。	利用者はほぼ全員が希望などを話せることから、その内容を利用者の声として、職員会議の中で話し合っている。家族には年2回の家族アンケートを行っており、回答率は高く、面会時の面談と併せて意見を伺っている。足浴の要望などが出され、対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議前に事前意見用紙を全職員に配布し意見を頂いている。意見については経営会議、所長面談時報告している。今年度は経営について正職員から事務職員に講師をお願いし学んでいる。内部監査機能があり法人内で行われている。	職員会議の前に、各職員に「事前意見用紙」を配布して記入するようにし、意見等を出しやすい工夫を行っている。意見については法人の経営会議にも報告している。個人面談はホームの管理者が年2回実施しており、プライベートな事項についても話し合いがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課規定により職員の努力の程度及び能力の保有度を評価し、勤労意欲の高場と業務効率の向上を目指している。また、各種諸手当の見直し等も行っている。(処遇改善手当等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を提供している。また、外部研修については、職場内で伝達研修を行い職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会の会議や研修会に積極的な参加を提供し、ネットワーク作りやサービスの質の向上に活かせるように期待している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には希望や今まで暮らして来られた生活歴を伺い生活援助計画に取り入れている。要望等も伺い不安の軽減に取り組んでいる。生活の中での行動や言動会話からも本人の想いを受け止め個人が安心して安全に穏やかに生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から要望希望不安なことを伺い生活援助計画に取り入れ安心してサービスを利用して頂けるように務めている。利用者の状況に変化があった時には連絡を行い家族の方と情報を共有し対処に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族とご本人からのお話を伺い安心してサービスの利用を開始して頂けるよう努めている。入所申し込み時点で母体法人内で外部の方からも参加頂き検討委員会も開催し必要としているサービスについて検討対応が出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りを畑において年間を通して行っており作り方、管理等教えて頂き一緒にいき収穫を楽しんでいる。生活の中でも食事、掃除、洗濯等全般において無理のない範囲でゆっくりと行って頂くことが出来ており時間を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に面会、外出、外泊について本人のご意向を伝え協力頂いている。また、面会時についても散歩の介助やマッサージなど家族が気兼ねなくご本人と過ごせる空間を提供している。行事時には参加頂き過ごして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	地域行事や出身地の行事等過ごされてきた場所へ出かけるなど支援を継続している。日々の買い物についても地域での買い物や今まで暮らして来られた場所への買い物も行っているご家族と馴染みの美容室へ出かけたたり職員が馴染みの理髪店と一緒に掛けるなど外出や行事等を楽しめるよう支援している。	利用者毎に地元のお祭り見物に出かけるほか、地域の商店やスーパーにも買い物でよく出かけている。地元的美容院や理容店を馴染みとして出かける方もいる。また、地元の道の駅が多くの利用者の馴染みの場所となっており、よく出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の出来ること難しいこと障害について理解しながらできることは一緒に行えるよう支援している。利用者同士の会話時には耳を傾け利用者同士が分かち合えるように仲立ち役を行っている。孤立しがちな利用者については職員が積極的に声を掛ける支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度、現在において契約終了した方はいない。以前契約が終了し母体施設に入所された方についても母体行事時面会が行っている。また、過去に入所されていた方の親戚様から定期的に理髪の訪問を頂いており本人が亡くなられた後も関係が続いておりご家族の様子を伺うことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から本人の思いや希望、不安等を聞き出せるように努めている。本人ご家族から伺った内容については、連絡ノート、相談票等に記録し職員間での情報共有、改善に務め会議等で話しあっている。思いをうまく伝えることの難しい方については、行動や仕草、体調等で把握に努めている。	利用者のほぼ全員が思いや意向をお話できる状態にあり、把握した内容は連絡ノートや相談票に記録し職員間で情報共有している。また、思いを上手く伝えられないような場合には、利用者の仕草や表情から読み取るように心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族の方から生活歴を伺っている。ご本人からも普段生活の中の会話から伺っている。在宅生活から入所される方については担当支援専門員へ連絡し情報を頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートや日々の申し送りにて、一人一人の状態の把握に努めている。日々の生活の中で出来ること出来ないくなっていることを観察把握し浮ている。また、利用者が負担なく過ごして頂けるように体調、精神状態の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や生活状況のアセスメントを毎月会議等で話し合っている。必要時には臨時カンファレンスを行いご家族の方とも連絡を取り合い話し合っている。面会時等でご家族から頂いたご意見等についても連絡ノート等で職員間で共有し生活援助計画に取り入れている。	ケアプランはケアマネが原案を作成のうえ、職員カンファレンスでの話し合いを経て、家族の同意のうえで作成している。プランの見直しは6ヵ月毎を基本としており、毎月の職員カンファレンスにおいてモニタリングが実施されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についてはケース記録等に記録し職員間で情報を共有しご家族にも毎月発送し共有できている。申し送り、連絡ノートにも記録し生かしている。毎月の会議にて情報を元に話し合い見直し生活援助計画に取り入れ日々のケアに生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良による通院等家族が対応出来かねる場合には職員で対応を行っている。利用者の希望される外出等にもその都度対応を心掛け行っている。母体法人の協力も頂き全体でつながりを持ち本人やご家族の意向に寄り添ったかわり方に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方の訪問や協力を頂いている。読み聞かせのボランティアの方の来荘も継続的にある。地域にある交番と入居している利用者の情報を紙面で共有し協力の依頼を行っている。敬老会では、地域婦人の会、保育園の踊りのボランティアを頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に受診することが出来ている。通院時には情報提供用紙を用意し活用している。緊急時、職員が対応した場合にはご家族との連絡を随時取り状況説明し対応している。本人の状況によっては専門医への受診を頂いている。	多くの利用者が地元の九戸診療センターをかかりつけ医としており、通院は家族対応を原則としている。また、精神科の受診者も多くなっている。歯科については村内の歯科医院を利用している。法人内施設の看護師の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、訪問看護を利用している方はいない。職場内看護との協働については職場内ではなく法人内の看護との連携が取れる状況であり口頭での相談を行いアドバイスを受けることが出来ている。緊急での通院では介護職員が付き添い医師や看護師に報告相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合にはカンファレンスに介護支援専門員が病院に出向き病院関係者との情報の共有が行えている。入院中にも病院との連絡、ご家族との連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは現時点では行っていない。経営会議にて変化が見られている利用者については報告し情報交換に努めている。また、ご家族からグループホームでの生活が困難となられた場合についての相談も受け対応している。今年度は地域医療福祉連絡協議会主催の勉強会へ職員2名が定期的に参加し学んでおり重度化になる前に出来ることを学びケアに取り入れている。	重度化や終末期の対応については、入居時に説明のうえ了解を得ている。地域での協力医の確保が難しいため、現状では看取りの取り組みは行っていない。地域で開催される医療福祉連絡協議会の勉強会には職員が参加し、重度化に関する研修を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度、応急手当普及員講習の受講を進め職員1名が受講終了している。その職員を中心に講習会を開催予定である。AEDについても玄関に設置しよう方法について書面で全職員に配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月火災による避難訓練を開催し職員、利用者が安心して暮らしを継続できるように取り組んでいる。また、今年度においては村の防災訓練にも参加し実際に水害避難について行う予定である。居室防災頭巾、避難カードを用意し日頃から災害について意識づけを行っている。	火災想定を中心に、避難訓練を毎月実施している。今年からハザードマップでは洪水による浸水危険地域となったと村から知らされ、合同訓練の予定だったが順延されている。夜間想定訓練も実施しているが、利用者の理解不足や訓練不参加があり、課題としている。	村との合同避難訓練が順延となっているが、新たに浸水危険区域となったこともあり、訓練を通じて一層の安心安全環境となるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	4月に開催された理念の研修会において尊厳について学ぶことが出来ている。各事業所の倫理についても研修を受けている。接遇については各職員が毎月振り返りが行えるようにチェック表を用いている。プライバシーについては男女が向かい合う居室にはのれんを掛ける等工夫している。	入浴時やトイレ誘導の際などには特に羞恥心にも配慮して、耳元で囁くなどしている。接遇全般に関して、職員は「自己チェック表」に記入して管理者に提出する取組みを行い、自らの振り返りに効果を挙げている。同性介助の希望者には配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話、表情、ご家族からの情報ご意見等から思いや希望を伺っている。職員は馴染みの関係作りを念頭に話しかけやすい雰囲気作りに努めている。利用者からの言葉を大切に考えられる職員となれるように会議等で話しあい実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日には近くの神社までの散歩を希望されることが多く対応できている。自宅が近くにある方には支援内容にも取り入れ対応している。ドライブや買い物や地域へ出かけたい希望には職員体制を整え対応している。居室にて過ごしたい利用者については無理することなく過ごして頂いている。体調の確認についても行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力で馴染みの美容院へ外出されたり定期的に美容室の訪問もある。毛染め等についても美容師が訪問して染める等行っている。着替えについても好みの服を選んで頂けるような声掛けを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事時には近くの商店に職員と利用者が買い物に出かけ食べたいものを考え購入している。地域の方からの野菜等の差し入れが多くあり頂いた時点で利用者と相談してメニューを作成している。調理についてもホール内で一緒に行う等楽しみを持って行っている。	食材は主に地元の商店から購入しており、産直も良く利用している。また、地域の方からの野菜等の差し入れも多い。献立は利用者の希望も取り入れて職員が考え、調理も職員が行い利用者は味付けや盛り付け等を手伝っている。敬老会等では行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量について摂取した量を記録し必要量が摂取できているようにチェックしている。野菜、雑穀を多く取り入れた料理を提供している。今年度は地域で開催されている栄養管理部会勉強会にも参加して栄養管理等食について研修を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯については週2回薬品での消毒を行っている。義歯毎食後洗浄しており自身で出来ない方については職員が対応している。嗽についても個々にあった方法で行いチェック表で確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室2部屋に1か所のトイレの配置となっている。排泄チェック表にて排泄について職員間で情報を共有している。表情やしぐさ等を観察してトイレの誘導を行っている。ほとんどの方が布パンツを使用しており日中、夜間においてもオムツ使用者はいない。	排泄チェック表をもとに適切なトイレ誘導を心掛けており、現在は紙オムツ使用者はいない。リハビリパンツ使用は日中1人、夜間2人であり、他は布パンツ使用者で多くの方が自立している。夜間のポータブルトイレ使用は1人のみであり、ほぼ全員がトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事の提供を行っている。起床時に乳製品の提供や夜間や日中において水分を多く摂取頂けるよう工夫声掛している。ラジオ体操を午前午後と提供している。歩くことを多く取り入れ取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望があれば希望日に対応できるように工夫している。同性介助の希望があれば対応できるように工夫している。浴室が使用できない時には母体法人と協力し入浴を行っている。リフトも完備しており負担のない入浴が対応できている。足浴の対応も行っている。	週2、3回の入浴を基本としているが、受診の前日などは利用者の希望に沿って対応している。リフト浴の設備もあり活用し、同性介助の希望者にも対応している。入浴時間は30～40分位であり、職員と1対1の時間として会話を楽しむ機会ともなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室休んで頂いている。食堂内で傾眠されている利用者への声掛けも行っている。和室で過ごすこともできるように工夫している。夜間安眠できるように日中の活動や水分、栄養、排泄、運動に力を入れている。居室内にエアコンの設置に取り組み過ごしやすい環境の提供を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋、通院時情報提供用紙については、綴り職員が確認できる場所に置いている。薬や治療方針に変更があった利用者については様子観察に努めている。服薬時には本人と職員で声を出し名前服薬時間の確認をし本人であることを顔を見て確認している。不定期の薬については臨時薬チェック表を用いて服薬できているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花を生活習慣にしてきた利用者については花の購入や季節のドライブ時等道端に咲いている草花を採取し施設内や居室内に飾り楽しませている。畑仕事を習慣にしてこられた利用者からは畑仕事や草取りと職員と一緒にやっている。本人の生活に合わせた支援を行っている。嗜好品についてもご家族の協力を頂き対応できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホーム周辺が自然に囲まれており地域住民の散歩コースにもなっている。散歩時に一緒に散歩をされる様子も見られている。家族の協力を頂き本人が出掛けたい希望に寄り添うことが出来ている。カレンダーやおたよりに外出予定を記載し利用者、家族にお知らせしている。季節行事お墓参りやお祭り、紅葉見学等支援に努めている。	ほぼ毎日、近所の熊野館神社やホーム周辺の散歩を行い、近所の方からも声を掛けられている。盆や正月には家族とともに自宅に帰り宿泊する方もいる。ドライブは利用者の希望も取り入れ、お花見や村内のイベント、お祭りなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し本人が居室内で管理されている方もいる。事務室金庫に預かっている方についても本人から希望があった場合はお渡しし確認して頂き安心を頂いている。ご家族にも毎月お小遣い帳のコピーを発送し原本には来荘時確認頂きサイン印鑑を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂内で設置している電話機で利用者が希望があればご家族や知人への電話の取次ぎを行っている。季節の挨拶はがきなど本人から希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量、職員間の声について気を付けている。温度計湿度計を全室に用意し調整を行っている。のれんの活用し遮光にも努めている。玄関前にベンチを設置し利用者、地域の方が気兼ねなく過ごせる空間作りを努力している。季節感を大切に草花を飾れるように散歩時等採取し飾っている。	ホームは回廊型の作りとなっており、ホールの吹き抜けに木材をふんだんに使い、開放的で落ち着きある雰囲気となっている。壁面には季節を感じられる飾りつけや、行事での楽しい写真などが飾られ、暖かみを感じられる。利用者はテーブルでゆっくりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、食堂、廊下にソファを用意しくつろげる空間を作っている。和室も2か所あり思い思いの場所でくつろげる工夫を行っている。居室内でも過ごせるように椅子を用意している居室もある。玄関前にはテーブルとイスを用意し休めるように準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時使い慣れたものを持って来て頂くなど声を掛け利用者が不安とならないよう工夫している。ほとんどの方がベットを利用されている、高齢の利用者については家族の希望あり介護ベットを使用し本人に負担のないように対応している。	蓄熱式の暖房機が備え付けられている他、ベッドや小物入れなどは、利用者が使い慣れたものを持ち込んでいる。各居室ごとに家族や行事の写真が飾られ、生け花や短歌を楽しむ方はその作品を飾っているなど、それぞれの生活を楽しまれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から近い場所にトイレを配置しておりあんしん出来る環境となっている。居室入り口は段差がない工夫も行っている。本人にあつた安全な歩行ができよう歩行器、シルバーカー車いすを使用している。夜間について歩行が不安な方にはポータブルトイレを用意するなど本人の身体状況に沿った対応を行っている。		